



第7戦

AUTOPOLICE GT 3HOURS RACE

オートポリス

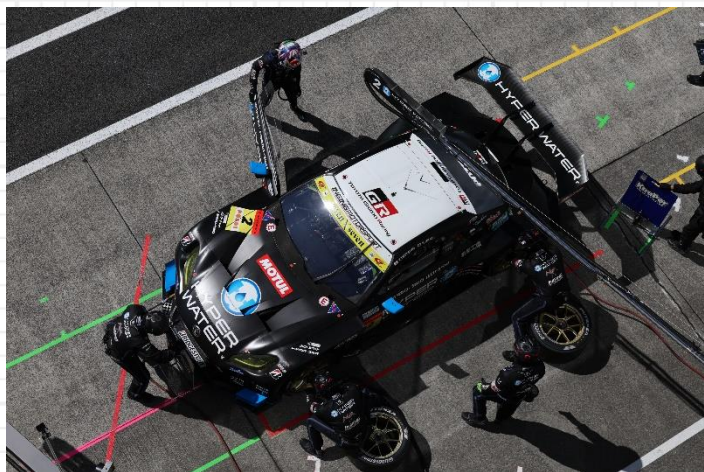
決勝

10月18日(日)

天候：晴れ コース状況：ドライ

第7戦オートポリスは「がんばろう熊本！～熊本地震復興支援大会」として10月17～18日に開催。決勝レースは第2戦以来の3時間レースとして18日に行われた。通常の300kmレースより走行距離が長いため、2回の給油のためのピット作業が義務付けられる。スタートは堤が担当し4番グリッドから17周目にはクラストップへ順位を上げた。しかし20周目に後続でアクシデントが発生した際にセーフティカー(SC)が導入され、マージンを一気に失った。中盤に5位争いを制した直後に2回目のSC導入となり、このタイミングでピットインできた車両が上位へ進出。2回目のピットインでト部に交代後は3台による5位争いのバトルとなり6位へ順位を上げチェッカー。上位2台の車両にペナルティが与えられたことで4位となった。

決勝：4位



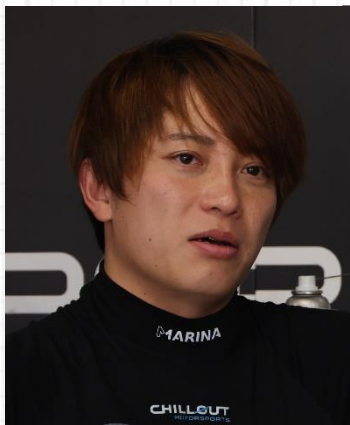
前日より暖かい朝となったオートポリスは、駐車場が満杯となるほどの来場者があった。決勝前のウォームアップ走行では、クラストップのタイムをマークし決勝レースでの活躍が期待された。

3時間の決勝レースは曇り/ドライ、気温26℃、路面温度34℃というコンディションの13時16分にスタートした。ステアリングを握った堤は1コーナーまでに3位へ順位を上げ、トップ3台によるバトルを展開。11周目の上り14～15コーナーで2位の52号車スープラに勝負をかけ最終コーナーで並び12周目の1コーナーで2位にポジションアップ。さらに17周目の第2ヘアピンで61号車BRZをかわしトップに立った。20周目には2位に3.5秒差をつけたが、21周目に後続の車両がクラッシュしSCが導入され、堤のマージンはなくなってしまった。

27周目にSCが退出しバトルが再開すると36周目には6.5秒のリードを築き37周でピットイン。ドライバー交代はせず給油とタイヤ4本を交換して11位でコースへ戻った。最初のピット作業時タイヤ無交換でピット滞在時間を短くした52号車スープラに、堤が追いついたのは43周目で、2台のバトルは47周目の3コーナー先で決着。左のダートにはみ出したライバルがバランスを崩してスピン&クラッシュで、FCY(フルコースイエロー)からSC導入となった。53周完了でバトル再開となり、56周で堤はピットイン。ここで給油とタイヤ4本を交換しト部に交代。しかしこのピットインよりも前に2回のピット作業を終えていたチームがあり、ト部は14位で隊列へ戻る事となった。

その後、2回目のピットインをするチームもあり、ト部は76周目には7位まで順位を挽回した。直前を走るのは65号車メルセデスで、真後ろまで迫るも巧みなブロックで前に出ることができなかった。終盤86周目に1台をかわして6位まで順位を上げたが93周でチェッカー。レース後に2位と4位の車両に対しペナルティが与えられたことで、順位は2つ繰り上がり4位という結果となり13ポイントを追加した。



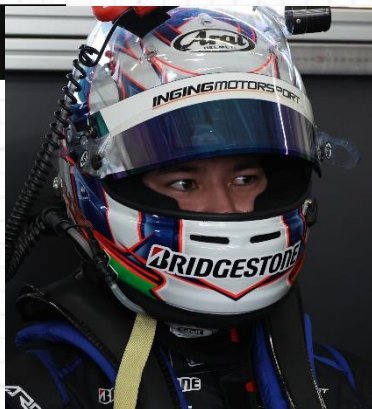


ドライバー 堤 優威

「正直乗っていて優勝できるペースでした。スタートで1台をかわし、一番のライバルである52号車も抜けたので、チームとしては勝てるレース運びでした。僕としても100点でしたが、SCのタイミングが悪くすべてが噛み合いませんでした。チームとしては速さがありましたが、クルマの調子もストレートがちょっと遅い以外は本当に良かったです。今日のレースで一番速かったのは事実ですが、あのタイミングのSC導入では作戦もどうしてもなかったと思います。悔しい結果になりましたし全く納得のいかない順位です。最終ラウンドは結果を求めて走ります」

ドライバー ト部 和久

「いろいろ試行錯誤したのですが65号車を抜けなかったのが痛かったです。近づきすぎるとダウンフォースが抜けてしまいますし、セクター2〜3では追いつけるのですがセクター1では離されるといいう展開が続きました。相手のレベルも高かったです。SCのタイミングなどレース展開にも恵まれませんでした。ちゃんとレース後の反省をして、自分の足りないところをちゃんと見つけて見つめ直します。自分のパフォーマンスはまだまだ足りていないと思いますので、上を見て頑張ります。最終ラウンドはどんな状況であれやることに変わりはありませんから、前を向いて頑張ります」



監督 加藤 寛規

「コース上での走りはすごく良かったと思うのですが。最初のSCは1コーナーの手前を走っていましたが、2回ともタイミングの悪いSC導入でしたから、残念ながら順位を下げることになってしまいました。今日はそれに尽きますね。タイヤ交換は最初から2本のみの交換も視野に入れていたのですが、今回はスタート位置も前の方で堤選手もクリーンエアでトップを走ることのできたので、4本交換としました。結果は残念ですが良いレースを見せられました。最終ラウンドは仕切り直して頑張りますので、応援をよろしくお願いします！」

